

1. 平成30年度経常収支:1億3,132万円の赤字

7月8日に開催されたキッコーマン健康保険組合会で平成30年度決算が承認されました。

平成29年度に比べると、経常赤字が9040万円増えたこととなります。

経常赤字が増えた主な要因は、高齢者医療支援のための「納付金」が1億3,201万円増えたことが上げられます。赤字分は前年度からの繰越金で賄うこととなります。

そのため、翌年度に繰越したり、積立金に回したりするお金が前年度よりも減少することとなりました。

(H30年度決算)

一般勘定:収入21億3331万円、支出18億6805万円、差引残 2億6526万円⇒次年度繰越

介護勘定:収入2億1162万円、支出1億8920万円、差引残 2242万円⇒次年度繰越+準備金積立

2. 「納付金」は、65歳以上の加入者の医療費に連動して増減します！

主な「納付金」は、日本の75歳以上の高齢者医療費を支援する「後期高齢者支援金」と65歳～74歳の前期高齢者の医療費を支える「前期高齢者納付金」があります。

当健保は平成30年度に、それぞれ4億円強を拠出しました。

特にH30年度は「前期高齢者納付金」が増えたのですが、これは年度や健保組合ごとに大きく異なります。その健保に加入している前期高齢者の保険給付費（医療費など）実績や人数が計算の基準となっており、65歳～74歳の加入者の医療費が増えると納付金も増えることとなります。

令和元年度の当健保の「前期高齢者納付金」の支払額は、7億6,244万円に増える見込みです。

3. 当健保は「40歳以上の被扶養者の健診受診促進」と「加入者の生活習慣の改善」に注力しています！

当健保は、生活習慣病の重症者やリスク者を減らすため、

「キッコーマン被扶養者健診制度」(定期健診項目+乳がん検診が少ない自己負担で受けられる制度)の普及や、「エクササイズキャンペーン」や特定保健指導などに取り組んでおります。

皆様が高齢者になられても健康な生活が送れるよう、
病気の早期発見・早期治療を願っております。



以上